

塾の「サボリ」もお金教育の好機

「塾に通わせているのに、サボってばかりいるんです」というお悩みをお持ちの方はいらっしゃいませんか？

こういうとき、勉強に対する取り組み方をアドバイスする方が一般的だと思うのですが、この場合も、「お金」についての教育をするチャンスだと思ってください。

たとえば、塾の月謝に毎月いくら払っているのか、それは1回あたりいくらになるのか(=1回サボることでどれくらいの損失になるのか)、そして、それに相当するお金を稼ぐのに、どれくらいの労働が必要なのか。こうしたポイントについて、具体的な数字を出しながら話してみるといいでしょう。

中学生以上なら、塾の月謝がご家庭の生活費の中でどれくらいのウエイトを占めているのかを伝えても十分理解できる年齢です。塾に通うという行為には「コスト」がかかっているのだと、きちんと理解させることが大切なのです。

もしも、毎月数万円もかけているにもかかわらず、そのコストに見合う成果が出ていないとしたら、つまり、成績が一向に上がらないのだとしたら、親子でその原因について率直に話し合うべきでしょう。

「プレッシャーをかけるのは良くないのでは？」と思うかもしれませんが、実は男の子というのは論理的な話のほうが理解しやすい面があります。いたずらに感情に訴えかけるより、コストを切り口にして話すほうが、成果を出す必要性に気付きやすいと言われています。

たっぷり時間がある冬休みは、親子で「お金」に関する話をする良い機会かもしれません。今年は「お年玉」の管理権を、ぜひ、子供に譲ってあげてください。